

# 下関北九州道路整備促進大会の開催、要望活動の実施

8月23日(金)下関市内において、当連合会苅田会長・吉村関門連携委員会委員長をはじめ400名を超える関係者が出席するなか「下関北九州道路整備促進大会」が開催された。

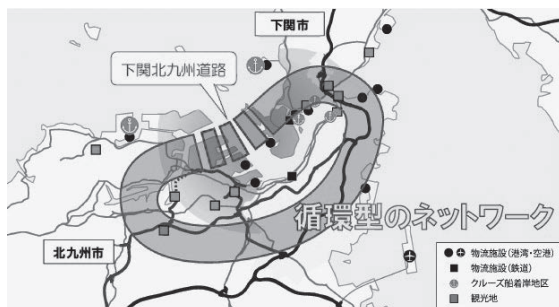
同大会では、下関北九州道路の事業化に向けた国による迅速な対応などを要望する決議を採択した。これを受け、9月6日(金)に東京都内で関係大臣等への要望活動を実施。当連合会から苅田会長が参加した。

## 1. 下関北九州道路の早期整備への動き

下関北九州道路の早期整備に向けては、平成26年より山口県、福岡県、下関市、北九州市の地元2県2市、地元経済界等が連携し、整備促進大会の開催や政府・関係省庁等への要望活動、関係セミナーの開催等を実施してきた。

### ■これまでの取組経緯

平成29年度からは、地元関係自治体、経済界、国(地元整備局)による「下関北九州道路調査検討会」を開催。概略ルート、構造形式、整備手法の3つの観点から、地域住民や企業、有識者の意見も聞きながら基礎的な調査検討を実施し、本年3月、取りまとめた結果を国に報告した。



今年度からは、この基礎的な調査検討の成果を踏まえ、国による調査が行われることとなった。その中で、高度な技術力や多岐にわたる知見に加え、PFIの活用など官民連携による効果的な整備手法の検討が実施される予定。

## 2. 整備促進大会(8月23日、於下関市)

### ■大会概要

こうした取組も踏まえ、同道路の必要性や重要性を広くアピールし、早期実現に向けた機運を一層高めることを目的に、地元官民が一体となり整備促進大会を開催。地元2県2市の首長や各県市議会の議長・議員、経済界から400名を超える関係者が出席した。

冒頭、当連合会の苅田会長が大会主催者の一人として挨拶に立ち、「下関北九州道路は、下関・北九州両都市圏の繋がりを更に深め、産業振興、インバウンド市場の拡大等を後押しするための重要な役割を果たすもの。当地域が東アジアのゲートウェイとしての存在感を高める起爆剤として同道路の整備促進を国に対し強く訴えかけていく」と述べた。

また、吉村関門連携委員会委員長が地元経済界を代表して意見提言を行い、「下関北九州道路は関門海峡を挟む120万人都市圏の交流を加速する重要なインフラ。関門海峡が国際クルーズの拠点として飛躍するためにも、下関北九州道路が重要な役割を果たす」と訴えた。



苅田会長の挨拶

大会では、市民からの意見提言なども行われた後、早期実現に向けた決議が採択された。

### ■決議要旨

1. 早期事業化に向け、国による調査検討を迅速かつ着実に行うこと。
2. 早期整備を図るため、PFIの活用など官民連携による効果的な整備手法の検討を促進すること。
3. 平常時・災害時を問わない安定的な輸送を確保するための重要物流道路として位置づけること。

## 3. 要望活動(9月6日、於東京都)

8月23日の整備促進大会での決議を踏まえ、地元2県2市の首長・議会議員、当連合会の苅田会長など、整備促進大会の主催メンバーを中心に要望活動を実施した。

石井国土交通大臣などに対し、調査検討成果を報告するとともに、下関北九州道路の早期事業着手を強く要望した。



石井国土交通大臣への要望(担当：齊藤)